

設立50周年を迎えて

放送文化基金 理事長 濱田 純一



放送文化基金は、昭和49年（1974年）に発足し、今年2月1日で設立50周年を迎えました。この間、多くの方々からご支援ご協力を賜り、放送文化の発展と向上に貢献することができました。皆様に心より御礼申し上げます。

50年前、放送文化基金の助成第一号を受けた研究のひとつに、「放送法制度の研究」がありました。私も後からその研究チームに加えていただき、助成をうけて調査を行ったことが、以降50年にわたって放送に関わる研究者人生を切り拓く原点となりました。当時は、テレビ放送がはじまってまだ20年、テレビ創世期の勢いが続いていた時代でした。50年後、テレビをとりまく環境がここまで変化することを、誰が想像したでしょうか。テレビ局が映像発信をいわば独占していた時代から、今や誰もがスマートフォンで撮影した映像をインターネットを通して世界に発信できる時代になりました。ネットによる放送同時配信や動画配信サービスの普及などメディア環境は激変し、私たちの生活におけるテレビの視聴スタイルを大きく変えようとしています。お茶の間にあるテレビを家族みんなで見ていた時代は過去のものとなりました。放送文化基金は、放送をとりまく時代の変化を受け止めながら、放送文化、さらに言えば、放送を中心としたメディア文化の向上と発展に貢献する取り組みを、50年に渡って続けてきました。

放送文化基金の事業の三本柱の一つは、「放送に関連する助成」です。この50年で助成の総額は、基本財産を超えるおよそ127億円となりました。今後も放送文化の発展に資する研究や事業、さらには新しい時代を見据えた取り組みも積極的に支援していきたいと思います。

二つ目の柱、「放送文化基金賞」は、放送局だけではなく、制作プロダクションにも門戸を開いた歴史と伝統のある賞として高い評価を頂いてきました。昨年からは動画配信コンテンツへも表彰対象を広げ、広くコンテンツ制作者にエールを送ることにしています。

三つ目は「制作者フォーラム」を通じた人材育成です。NHK・民放といった枠を超えて制作者同士の交流の場を設けるべく、全国5つの地区で開催しています。ミニ番組のコンテストや意見交換などを通じて、お互いに刺激し合い、放送に新たな力を吹き込んでくれる優れた放送人が育つことを期待しています。

時代とともに放送も変化してきましたが、良質で信頼できるコンテンツが求められていることは変わりませんし、それに取り組む放送人たちの育成と持続可能な環境整備も大切です。放送を中心としたメディア文化の発展と向上に、より一層貢献すべく励んでまいりたいと思います。

今後とも、皆様方のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

